

東濃社会教育だより

-コミュニティ・スクール-



恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:原 賢志
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

地域学校協働活動推進員等育成研修

岐阜県では、「地域全体で子供たちの学びを支援する取組」の推進のために、ぎふ地域協働活動センター主催事業として、地域学校協働活動推進員等育成研修が行われています。年間4回、岐阜会場を主会場として、Zoom 接続による遠隔会場として、東濃（恵那県事務所）、飛騨（飛騨県事務所）にて開設されています。

本年度、第1回研修は、7月上旬にコロナウイルス感染拡大防止のため、DVDによる研修を行いました。東濃地区からは、公民館職員・社会教育委員・地域の代表者・学校関係者・行政関係者など、計22名の方が参加しました。各市が、今後の地域学校協働活動を見据え、推進員の育成を計画的に進めてくださっています。第2回～第4回の様子を紹介します。

第2回 9月3日 地域学校協働活動の企画・立案手法を学ぶ（恵那総合庁舎にて）

岡山市教育委員会の内田光俊氏から、白川村・岡山市（やかげ小中高子ども連合）の実践をもとに、企画の立案の仕方を学びました。めざす子供像（子供観）を共有して企画することを学び、ワークシート（企画シート）を使い、演習しました。

演習後の受講者の声から…
活動の企画は難しいけれど、この企画シートを使えば、できそうな気がします。



恵那会場の様子

第3回 10月1日 推進員の使命や役割 県内の先進事例の紹介（恵那総合庁舎にて）

「先進事例と推進員の使命や役割」と題して、筑波大学の上田孝典教授より『コーディネーターの役割として、「学校」と「地域」をつなぐだけでなく、「地域を教科書に」「地域を教室に」変えていくこと』『子供たちを育てることが学校でなければできないという発想をすて、「地域で子どもを育てる」ということを地域全体で共通理解すること』について教えていただきました。



恵那会場の様子

先進事例として、岐阜市立岐阜小学校より推進員の青山氏、輪之内町教育委員会の松井氏に地域学校協働本部の立ち上げなどこれまでの苦労も含めた具体的な実践の様子を発表していただきました。

2つの事例に対して、東濃会場からもZoomを通して、「推進員の構成メンバーはどうなっているのか」、「推進員の報酬などはどのようにしているのか」など踏み込んだ質問がなされました。

第4回 11月15日

(岐阜大学にて全員が受講)

地域学校協働活動の実施に向けて、子供との関り方を学ぶ 地域・学校の未来

岐阜大学教育学部の板倉憲政准教授より、現代の子供の特徴と対応の在り方を学びました。「地域学校協働活動の推進員になると、学校の先生と同様に多くの子供たちと関わるが多くなり、子供たちの問題行動に対して対処するだけでなく、その子供の生活背景を理解して、安心感を与える必要があること」「問題となる行動を引き起こしている環境を整えて適切に行動できるように支援をし、適切に行動できた姿を認め、価値づけ強化することで、子供にとって良い循環を作り出すことができること」について学びました。

その後、ぎふ地域学校協働活動センター副所長の大宮康一先生をファシリテーターに、「地域と学校の協働活動から見る未来」について、グループ演習を行いました。

岐阜大学での様子



演習後の受講者の宣言から…

- ・「地域と学校の心をつなぐ推進員になります」
 - ・「明日から、学校に嫌がられるくらい通って、学校と地域の連携に努めます」
 - ・「地域の子供たちのために、頑張ります。」
- 東濃地区から参加された方が、宣言されました。

社会教育法や地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務となりました。保護者と地域住民が一定の権限をもって学校運営に参画するという意識が高まってきています。現在、東濃5市でも、多くの学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置している学校）として学校運営を進めています。今後、さらに、多くの学校がコミュニティ・スクールに、さらには、地域学校協働本部の立ち上げを目指していくことから、学校と地域をつなぐ推進員の育成が求められています。

来年度も、推進員の研修が予定されておりますので、多くの方に参加していただきますようよろしくお願いいたします。